

伝統行事への理解深める

願い事、短冊に込め

たかおかこども園で七夕飾り



将来の夢を短冊に書いた



仲良く過ごす織り姫とひこ星を描いた絵などを飾り付けた

富士市厚原の「たかおかこども園」は2日、七夕の飾り付けを行った。年少から年長までの約190人が短冊に願い事を書き、クラスごとに用意されたササに結わえた。夏野菜や織り姫・ひこ星の絵を描いた厚紙、輪飾りなどもくくり付け、七夕の風習へと理解を深めた。

園児たちは短冊に願ひ事をしたため、ひもを丁寧にササの枝に結んだ。七夕には夏野菜を神様に供えるとの風習にのっとり、ナスやキュウリ、スイカの絵も飾り付けた。織り姫・ひこ星の絵は、2人が仲むつまじく肩を寄せ合って再会を喜ぶ様子を描いた。

全員が飾り終わると、願い事がかなうようにとの思いを込めて童謡「たなばたさま」を合唱した。短冊には「消防士になりたい」「ケーキ屋さんになりたい」「ケーキ屋さんになりたい」などの将来の夢、できるような

「星が好きなので流れ星を見てみたい」など、個性豊かな願い事もあった。年少や年中のクラスでは、アニメのキャラクターや特撮ヒーローのように「ササは同園職員の知

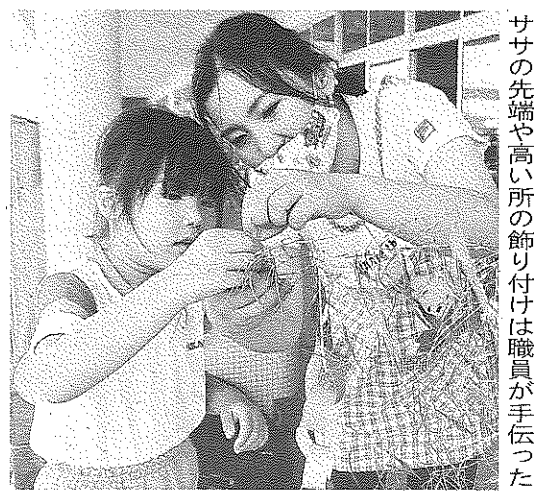
「毎日腕立て伏せや腹筋を頑張っているので、筋肉マンになりたい」、

人が各クラス分を提供。伝統行事に触れ、理解を深める目的で約50年前の開園当初から毎年行っている。

渡邊宏行園長は「七夕は将来の夢について考えるきっかけを与えてくれる、とても大切な行事。子供たちの真つすぐな願いを受け止め、よりきめ細かい教育の実践につなげていきたい」と話した。



短冊や園児の絵などをくくり付けた七夕飾り



ササの先端や高い所の飾り付けは職員が手伝った